

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当時から理念は同じ地域の中で家族、知人、地域住民、近隣、子ども達と関わりを多く持ち楽しく暮らしている。住み慣れた地域での安心した暮らしがある。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時は、必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。又、ミーティングや申し送り時理念や方針を確認している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の住職さんが毛筆で書いてくださった理念が玄関を入ったわかりやすい場所に額に入れてかけてある。地域の方、見学者は筆の達筆のすばらしいところを誉めてくださる。そのときわかりやすく説明し伝えている。家族には契約時説明している。	
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物に出かけ近隣の人達と挨拶を交わしている。毎日野菜等の差し入れや面会がある。施設が学校跡なので運動会や芸能祭、秋祭り等地域の方から招待して下さる。大まかな行事の他地域の方とのふれあいは毎日ある。施設は感謝の気持ちをこめて年1回のどか祭りを開催し地域の方を招待している。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や秋祭り、運動会、芸能祭に招待して頂いている。小中学生によるボランティアスクールや高校生の職場体験、お話玉手箱のボランティアサークル、エンゼル会ボランティアさんによるあき缶集め、その資金で施設へ贈り物をして下さる。職員も空き缶収集の協力をしている。又、地域の独居の方が体調不調時相談にくるので 医療機関との連携も図っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>小中学生のボランティアスクール、高校生による職場体験、研修医の実習、高校生、大学生、保健助産科の看護師の施設見学の受け入れも行っている。身近で認知症のお世話をされている方から愚痴や接し方の相談を受けることがある。</p>	
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を全員で取り組み、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果もミーティングで報告し改善している。昨年指摘された申し送りノート等に全員の印を入れ、見た証が必要と言われた。全員が見ていたが印を押す事で次ページに写り、見にくい等難もある。</p>	<p>○</p> <p>事業者は少ない職員数で勤務にかかる前必ず見るよう義務づけていると同時に口頭の申し送りもしている。他の方法を検討している。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>事業所からの報告とともに参加者メンバーから質疑意見あり。次回開催日まで解決できるよう参加者メンバーが早い対応をしてくださる。市町村に権限が移行され情報が少ない。又、2ヶ月に1回という事で、参加者から休日の会を希望、行政関係者からの参加が難しい等の問題がある。今後も意見を出していただき、施設のサービス向上に活かす。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>保険者に入居退居、事故報告、入居者の情報等報告している。地域包括支援センターとは連携を取っている。介護保険担当者の方には運営推進会議に参加していただいている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>今まで、成年後見が必要な利用者はいない。パンフレットやケア会議時に話し合うこともある。又、1年前までは支援相談員さんが来訪してくださっていたが、利用者がいなく最近はずるのいておられる。職員の入れ替わりがあり全員が理解できていない。</p>	<p>○</p> <p>今は対象者がいないので、新採用者の職員は理解できていない方が多い。職員ミーティング時に勉強していこうと思う。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>月1回の職員ミーティングに毎回議題に上げ、理解浸透や尊厳のある接し方を勉強している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとって丁寧に説明している。又、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲についても説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、そのときの利用者の不安を取り除くとともにケア会議、運営推進会議、家族にも報告している。又、ドライブや買い物には公平に行っている。日常生活の役割分担を決めている事もあるが自分が、したい事をした時にしていただき、自由にのびのびするようケアにあたっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	封書にて毎月家族に利用者の健康状態や生活状況を写真入りで情報提供している。緊急時は電話で対応。職員の異動についても毎月個人情報と一緒に紹介、最近は出入りが多くその都度家族の面会時に紹介していた。運営会議で指摘され、名札付けの対応をし、改善した。	○ 職員の入れ代わりが激しく家族の方が理解できていなかった。名札や月1回の家族宛の情報提供でも行っていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、手紙や訪問時なんでも言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。直接言ってくくださる方が多い。出された意見要望はミーティングで話し合い要望に答え統一している。運営推進会議でも意見苦情が表せられる機会や場を作っているが参加される人が決まっている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティング時や休日、休憩時間等相談や問題が起こればそのつど管理者と職員が話し合い解決している。又、ケア会議にかけ助言いただいている。対応できないことは局長や会長に相談し対応している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急時等は職員の交代や管理者が柔軟に対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近職員の出入りが多く、馴染みの関係でさず落ち着いたない方がおいでる。新しい職員さんには、利用者の方が心開くまできちんと挨拶や紹介し、なじみの関係作り、利用者の方が今までの生活を継続できるよう施設のこと教えて頂く工夫もしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修はしている。全員認知症の専門研修を終わった段階で退職される方が多い。研修は順番に受講していただくようにしている。研修も職員ミーティング時報告してもらい、又、全職員が閲覧できるようにしている。	○	職員採用してもやめられる方が多い為、研修に出たら、勤務が回っていかない運営面での苦労がある。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	那賀町の職員間での交流やグループホーム協会での研修会に参加し交流できる機会はある。	○	職員採用してもやめられる方が多いため勤務が回っていかないので交流できる機会があっても運営面での苦労がある。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、気分転換できる休憩室やマッサージできる機械も確保している。親睦会やバレーボール大会にも参加していたが職員さんによりニーズも違い少しでも多く休みがほしいようでリクリエーションに参加されない。		職員さんによりニーズが違う。親睦会やバレーボール大会に以前は参加していたが、現在は、親睦よりも休みが多いほうが良いようである。日常に職員のストレスを把握するように努めている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断は年2回行っている。職員ミーティングに来ていただき現場のことの把握に向け、職員の意見を聞き問題解決にあたっている。	○	職員が向上心を持ち働けるよう職能評価策、会長さんの訪問により意欲向上にむける。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があったとき、居宅のケアマネからの情報収集、本人や家族から本人の置かれている状況や苦しんでいること困っていることを把握し、受け入れられるよう関係作りに努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労や経緯について傾聴することで落ち着いてもらいたい。次の段階の相談に繋げている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、居室が空いている場合はショートステイのサービスでも対応している。場合によっては、他の事業所のサービスにつなげる等の対応を取っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があれば本人、家族に施設見学していただく。ご本人が安心し納得していただく事から利用を進めている。やむを得ず利用になった場合はご家族や関係者の面会や宿泊、外泊、外出を行いながら安心感を持ってもらうような関わり方をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面が多い。又、そういった場面が多くもてるようセッティングや工夫や声かけに配慮している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、家族と職員の思いが徐々に重なり本人と一緒に支えていくための協力関係が築けることが多くなっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、ご本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族といっしょに過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らす近隣の方から四季折々旬の野菜の差し入れがある。又、友人、知人の面会で一緒に食事を楽しんでいただくなど出入りしやすい環境がある。本人を支えてくれた人達との関係が途切れないよう配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に傾聴したり相談に乗ったり、皆で楽しく過ごす時間や気の合うもの同士で過ごせる居場所作り、利用者同士の関係性について情報連携し、職員が共有している。又、心身の気分、感情で日々変化することが多く、役割や活動を通して利用者同士がうまく付き合えるよう、引っ付けたり離したりしながら楽しく暮らせる支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>退居された方も行事に招待している。退居後も家族より旬の野菜の差し入れがある。他の事業所に移られても相談事や事務処理の手続きについての相談がある。ボランティアに来てくださる方もいる。こちらから会いに行く場合もある。友達を連れて食事にも来て下さり、家族的な付き合いをしている。ありがたい存在である。</p>	
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情、態度でその真意を推しはかり、その方の思いや希望の把握に努める。意思疎通が困難な方には家族から情報を得るようにしている。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人自身の会話の中や知人親類等の面会で少しずつ情報収集に努めている。</p>	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>できないことに目を向けず、できる事や理解できる興味のあることに注目し、暮らしの中で援助し、その方の全体の把握に努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族には日々の関わりの中で情報提供している。ご本人の思いや意見を聞き、介護計画の作成に活かしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やカンファレンスを行っている。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員が情報を確認し、ご家族やご本人の要望を取り入れ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した場合、検討の見直しを行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに食事の摂取量、排泄、排便、身体状況、日々の暮らし、本人の言葉、気づきや工夫を記録している。いつでも全ての職員に勤務開始前確認を義務付けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイの受け入れをしている。今まで2名の方が利用され在宅で頑張っておられる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	昨年は、施設を巻き込んだ防災訓練があり、さまざまな団体や機関の方の参加があり、施設の存在を把握してくださっている。現在はイベントや何かあるたび訪問していただき日頃から連携の取れる体制がある。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターと連携している。必要に応じてサービスを受けられるが今は受けておられる方はいない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき、インフォーマルサービス他、情報収集でき、関係が強化されるよう感じた。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはご本人やご家族が希望するかかりつけ医を受診。長い時間ホームを空ける点滴や前もってわかっている検査をする場合は家族同伴の受診となっているが、安定期の受診、家族の受診不可能な場合は職員が代行している。利用契約時にその旨同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症の診察、治療、対処方法、カンファレンスに来てくださり、入居者の体調管理をしてくださっている。認知症の講師先生もつとめられている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>医療連携はとっていないが、いつも受診でお世話になっている病院の看護師と相談している。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院により認知進む。主治医は心がけており、事業所内での対応可能な段階でなるべく退院できるよう診療にあたっている。入院時は、入居者と一緒に頻繁にお見舞いに行き本人の意欲をかきたて家族や医療機関と情報交換し退院にむけた支援をしている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期の人を対象にしていない。本人や家族の意向を伺い事業所が対応しうるケアの説明を行っている。1年前にはご本人と家族の希望で医師のバックアップのもと、看取り期ぎりぎりまでグループホームで暮らせた。最後までよかったと言ってくださり、家族、本人は満足されていた。病院へ移り他界されても家族から礼状が届くなど繋がりはある。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>他の事業所へ移られてもアセスメント、ケアプランや支援状況を渡し、情報交換やきめ細かい連携に努めている。居宅から入居された方については情報がなくアセスメント等わからない。一緒に生活することでわかってくる。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の事業所に移られた時、退居先へサマリーを送付しこれまでの暮らしや生活環境、支援の内容、注意点、その他きめ細かな情報交換をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や食事介助時、他の方にきづかれぬようなさりげない言葉かけや対応に気をつけている。職員ミーティング時や日々の関わり方を点検し、利用者の尊厳を守る対応の徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「どないしたらいいんわからん」と口癖のように言われる方がいる。利用者との会話の中から興味のあること、好きな食べ物、本人のことを理解し、本人が自己決定できるような場面作りや複数の選択肢を提案し、利用者自身が決められる場面づくりの支援をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れは決まっているが、決まりがあってないような生活。一人ひとりの体調に合わせてその日、そのときの本人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。散歩やドライブ、買い物等、個別的支援も行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院は以前から行き慣れた所へ家族にお願いしている。お金の問題がある方は職員がカットしている。起床時や入浴後は化粧水をつけ以前から使用している化粧品で匂いも楽しんでいただいている。朝の着替えは本人が自己決定できるような声かけをしている。外出時用のおしゃれ着も皆さん家族が選ばれ、もってきておられる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と一緒に献立を立てている。旬の調理の仕方をお聞きし教えていただいている。今の時期はゆず料理やゆべしを作りながらそれにつつまる話をお聞きしている。又、盛り付けや片づけも利用者とともにし、その方が進んでお手伝いして下さるような気持ちを引き出す声かけや場面作り、雰囲気作りも大切にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	今現在タバコを吸われる方はいないがお酒をたしなむ方がいる。特別な日、お正月や敬老の日に楽しめるようにしている。又、女性にお酒好きな方がおられる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居時は紙パンツ利用者がほとんどであった。何名かが排泄パターンを把握し、トイレ誘導することで改善され、規則正しい生活で布パンツになる。昼間8名の方は布パンツでトイレ誘導している。夜間のみ紙パンツの方がいる。体調不調時のみ居室にポータブルを置いているがほとんど使っていない。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居時はほとんどの方が風呂きらいであった。季節に合わせて沐浴剤を利用し風呂を楽しんでいただいている。毎日の入浴で身体を観察し、早期発見にも努めている。異常時は変化、サイン、対応、気づきなど見逃さないよう観察記録し、医療機関と連携し対応している。又、休みの者も把握しやすいように記録は大切な箇所は赤ペンで記入し、口頭と個別ファイル(記録)で申し送っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本は規則正しい生活を支援している。その上で一人ひとりの体調や表情を考慮して休息が取れるようにしている。毎日の入浴、天気の良い日は 布団干し、散歩を促し、安眠促進の支援している。又、日中の個別の疲れ具合により個別に休息をいれ、夜間安眠できる支援を行っている。寝付けない方には、添い寝をしたり、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりし、精神的支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人の力を発揮できるよう、本人ができそうな事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。入居者その人その人にとって生活歴が違うことで利用者の経験や知恵を発揮できる場面を作っている。又、食事作りや行事食、遠足や地域の行事参加ごとの楽しみを利用者と相談しながら決めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設は預かっていない。日常的には作業所や近隣で買い物し共同の食材やおやつを購入している。年1回遠足時は家族同伴で家族からお金をもらい買い物し、本人が支払えるよう支援している。お金に興味ない方もいる。入居者の入れ替わりで家族の協力を得て小額のお金をもっている方がいる。事務所で管理し手芸用品を買うときは手渡ししている。残金に関しては家族に報告している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い穏やかな日は全員散歩にお誘いしている。帰宅願望のある方は、個別で対応したり子どもに誘ってもらったり本人の気分や繋がり、季節感、体調を考えながら散歩、買い物、ドライブ、喫茶店など車や歩行でなるべく全員で出かけるよう支援している。班別にもしたことがあるが全体で行くほうが皆が安定している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行きたい場所で家族と行かれた方が良いところは家族と相談し希望を叶えていただいている。施設としては家族、ボランティアの方の協力を得て年1回、福祉バスを利用し全員が参加できる機会を設けている。外食や買い物をし、家族とのふれあう機会づくりになっている。又、施設の行事だけでなく地域の催しが沢山あり外出の機会が多くある。四国88ヶ所参りもそのひとつである。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、家族や面会に来てくれた親類の方に賀状を書いている。又、利用者においては電話がかかってくる方、自分からかけてといわれる方、利用者の希望に応じて支援している。興味のない方もおられる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるよう職員は明るく笑顔で挨拶し、気安く出入りできる雰囲気作りに心がけている。面会時間があるが家族に応じて柔軟に対応している。希望があればいっしょに泊まっていたりするような寝具等もあり、今まで泊まってくださっていた家族の寄付がある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員ミーティング時や日々の申し送り時等でその日のケアを振り返り自覚しない身体拘束が行われていないか点検している。今までも身体拘束をしないケアに取り組んできた。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者自身が外出時、他人に入られるのが嫌な方が2名と鍵をかけていないことで物取れ妄想の症状の方がおいでる。その方は外出時鍵をかけている。他の方はかけていない。玄関のみは入居者の方による徘徊時のリスクを考え家族に理解いただき、外からは自由に入れるが中からは鍵を開けなければ出られないよう対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は1時間おきの見回りで利用者の様子を確認している。日中は3人が作業しながら見守りしているが、中から鍵がかかっているのに業者の出入りの隙を見て徘徊されたことがある。職員が直ぐ気づき対応した。	○	玄関の出入り時、職員、業者、面会の方に玄関での戸の開け閉めを確認している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は事務所で服用時には食堂へ持参している。刃物は置き場所を決めて本数も確認している。入居者の方で裁縫する方には針の本数を確認し、はさみも自分が持っておられる方がいる。管理できない方は事務所で預かっている。または、ご本人が持ってこられていない。洗剤も倉庫で保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット時にはインシデントに記入し職員ミーティング時再発防止に向け職員の共通認識を図っている。事故が発生した場合は速やかに事故書を作成し保険者、家族に報告し説明をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>消防署の協力を得て年1回は救急法の勉強会を実施している。又、ケア会議では医師からもそのつど起こりうる対処方法、予見されることを学び指導していただいている。</p>	
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>昨年はこの施設を利用し地域の方を巻き込んだ防災訓練が開催され、避難場所も確認していただく。施設においては自主防災、避難訓練を利用者、職員、学童で対応できるよう訓練した。</p>	
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>利用者一人ひとりの起こりうる危険リスクを把握しており、家族と共有し協力を求めている。</p>	<p>○</p> <p>昼間は職員が多いが夜間職員数の少ない中で、のリスクを考えると他の方へのサービスが手薄になる事を説明し、できる家族の方には協力していただいている。(夜間転倒しやすい方には来れるときは夜間の宿泊をお願いしている。)</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日の入浴で身体全体を観察している。又、バイタルチェック、顔色、いつもと違う行動言動を観察し、早期発見に努めている。異常時は変化、サイン、対応、気づき等見逃さないよう観察記録し、医療機関に連絡し対応している。又、休みの者も把握できやすいように記録は大切な箇所は赤ペンで記入し口頭と申し送り。個別ファイルで申し送っている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>調剤薬局から出されるリストを見て個人毎にファイルし整理している。薬担当者が薬の処方や用量が変更されたり本人の状態変化が見られるときは直接医師や調剤薬局に聞いて連携を図れるようにしている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘予防に向け食事やおやつ、食材やメニューの工夫をしている。散歩や体操、作業を通じて体を動かす機会を適度に設けている。下剤を服用されている方もいるがそれを服用することで排泄が毎日習慣化され精神的にも落ち着かれている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>口腔ケアの重要性を職員が把握している。毎食後、歯磨き声のかけを行い、力に応じて職員が見守ったり介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行いボリデントにつけ、全員の方がはずして休まれる。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	近所からの旬の野菜の差し入れがある。旬の食べなれた食材を使うことで食欲はある。職員に栄養士がいることで1日の栄養摂取量や水分は大まかに把握している。又、食事や水分摂取状況は毎日記録され職員全員で把握している。入居者の体調に応じ、普通食、刻み食、流動食で嚥下にも気配りし危険のないような配慮、支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して情報収集を行い、早期発見、早期対応に努めている。又、利用者、家族に同意をいただき職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策としてペーパータオルを使用する等予防も徹底している。ノロウイルス対策の研修会にも参加し職員の意識向上もしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や台拭ふきは毎晩漂白をし、清潔に心がけている。冷蔵庫も点検掃除している。食材は安全で新鮮なものを購入する。買いためしないように料理担当者が注文し把握している。地域の方や職員が自宅で取れた旬の野菜を持ち込み野菜類の食材の残りはあまりない。また、冷蔵庫や冷凍庫食材残りの点検も頻繁に行っている。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は駐車場をかねており狭いが木造作りで木のおいがあり木のぬくもりが感じられ温かい感じがする。学校跡なので窓が多く明るい。地域の方の訪問時折々の花や野菜の差し入れがあり玄関を開けたらひと目で見渡せるのでお客様にもなじみやすく誰にでも声かけやすい。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯の炊ける音、心地よいまな板の音、冬至には、ゆず湯かぼちゃの煮物、ゆべし等五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有する場所には、台所、食堂、腰かけやすい座敷の部屋がある。廊下は散歩できるスペースがあり廊下も長いすを置いてある。応接室にはソファを置いてある。入居者が一人で過ごしたり仲の良いもの同士でくつろげ思い思いに過ごせる場所がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥や衣類、写真、利用者の使い慣れた日用品、ラジオ、手芸用品等持ち込まれている。最近では和服を持参され日中も着て生活されておられる方がいる。又、本人にとって居心地が良いよう使い慣れた調度品の利用ができるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	個室、共有の場の空調管理は職員が外気温との差を大きくしないよう調整している。季節に応じて居室の夜間の温度調節は職員が見回りのたび調整している。又、冬場は、暖房の他それぞれがお持ちになった湯たんぽ、加湿器、電気毛布等個々に応じた対応をしている。		
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてバリアフリーでドアは危険がないように引き戸である。廊下と風呂は手すりが設けられている。共有する場所には畳の居室があり、腰かけやすい座敷があり、利用者の安全とリハビリに自立に向けた配慮がある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お風呂場には湯の暖簾がかけている。居室はお部屋を間違わないように名前をつけている。トイレは看板と夜間時、前を歩くとセンサーつきトイレの表示がわかるようにしている。入居者の方の持ち物は名前を付け間違いのないような配慮をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室の前には運動場、公園があり、散歩したり外食できる場所がある。ベランダには物干し場があり裏には畑がある。玄関にはプランターを置き園芸が楽しめる場所がある。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

在宅生活が困難になったときどこの施設へも行きたくない。「地域ののどかであれば行く」とスムーズに入居してくださる。元気な時、施設を見学し自分が納得されて入居していただいている。

近隣の方からの食材の差し入れがある。施設の入居者に食べてもらいたいと心から持って来てくださる。

地域の行事に招待してくださる。

地域の方皆から施設の事を大切にしてくださる。

退居された方から礼状や感謝の言葉、差し入れ、訪問がある。

小中学生、他方面からの交流がある。

地域資源、協働あり。